

■開催概要

- シリーズ名称：2019 鈴鹿クラブマンレースRound 4
 - 【開催レース】Blancpain GT World Challenge Asia Round3
 - F3 Asian Championship Certified by FIA
 - 2019 LAMBORGHINI SUPER TROFEO ASIA Round2
 - 鈴鹿クラブマンレースRound 4／クラブマンスポーツ(VITA OF ASIA)
- 主催：中日本自動車短期大学レーシングクラブ(ARCN)、グループ・オブ・スピードスポーツ(GSS)
鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 協力：AASC、ARC、OCCK、KRHC、チーム淀
- 競技：JAF公認・準国内格式 公認番号2019-2004
- 会場：鈴鹿サーキット フルコース(5.807km)
- 開催レース：クラブマンスポーツ(VITA OF ASIA)／54台
- 開催日：2019年6月22日(土)／公式予選、23日(日)／決勝レース
- 天候／路面：曇り／ドライ(23日)

■次回レース開催概要

- シリーズ：2019 鈴鹿クラブマンレースRound 5
- 開催日：2019年9月22日(日)
- 主催：淀レーシング(チーム淀)、鈴鹿モータースポーツクラブ(SMSC)
- 会場：鈴鹿サーキット 西コース(3.475km)
- 開催クラス：スーパーFJ、FIT 1.5 Challenge Cup、FFチャレンジ、RS、ネオヒストリック、CS2
フォーミュラEnjoy、サーキットトライアル



鈴鹿クラブマンレースRound4では「クラブマンスポーツ」Classが2レース制の特別戦「VITA OF ASIA」として開催された

土曜日は公式予選、日曜日は2レース制の決勝レース 2DAYによって行われた鈴鹿クラブマンレースRound 4

いよいよ本格的な夏を迎えようという6月22日(土)と23日(日)、鈴鹿サーキット フルコースを舞台に鈴鹿クラブマンレースRound 4が開催された。

今回は「クラブマンスポーツ」Classが『VITA OF ASIA』という名で開催された特別戦。22日(土)に公式予選が、翌23日(日)に2レース制による決勝レースがそれぞれ行われた。

「クラブマンスポーツ」は数ある鈴鹿クラブマンのカテゴリーの中で、現在もっとも多くの特戦台数を集める人気のクラスのひとつだ。2019年シーズンの第3戦と第4戦として開催された今回は、海外からの参戦者5名も含めて54台という過去最多の特戦台数を集めた(参加取り消しがあったため、コースイン台数は52台)。

23日(日)の早朝に開催された決勝レース1(2019年第3戦)は8周によるレース。午後の決勝レース2(同第4戦)はスターティンググリッドの上位6位までが決勝レース1の順位のリバースグリッドとなり、7位以下は決勝レース1のレース結果順にグリッドに並んでスタートとなり、こちらは10週のレースとして行われた。

今回の特別戦は、『SUZUKA Race of Asia 2019』のカテゴリーの一つとして開催されたものだが、そのメインレースであり世界中で人気を集めているジェントルマンレースのアジア版『Blancpain GT World Challenge Asia』は、参戦マシンが多彩で国際色も豊か。8月に開催される『SUZUKA 10 HOURS 2019』の前哨戦ということもあり、非常に注目を集めた。

特別戦の他、2018年からスタートし、鈴鹿では初開催となる『F3 Asian Championship Certified by FIA (FIA-F3アジア)』、ランボルギーニ・ウラカン・スーパートロフェオEVOによるワンメイクレースの『LAMBORGHINI SUPER TROFEO ASIA』も併催。アジア圏を代表するレースを一気に楽しめる一日となった。

2019シーズンの鈴鹿クラブマンも今回のRound 4が折り返し。残すは3戦となる。各参戦者はシリーズチャンピオンを狙うべく、追い込みを掛けてくるだろう。この後、まずは次戦Round5に注目していきたい。



様々なカテゴリーのレースを楽しみ、四輪レース好きにはたまらない大会となった

『VITA OF ASIA』という特別戦として開催された今回は 海外からの参戦者も含めて過去最多の台数が参戦。

『SUZUKA Race of Asia 2019』の併催となった今回の鈴鹿クラブマンレースRound 4では「クラブマンスポーツ」Classが『VITA OF ASIA』という特別戦として開催。8周による第3戦、10周による第4戦がそれぞれ52台によって争われた。

スタート時の混戦・リスク回避を目的として、決勝レースはスターティンググリッドの1台目から40台目までを1グループ、41台目から52台目までを2グループとし、時間差によるローリング方式によりスタート。どちらのレースもフルでポイントが付くため、各参戦者はオープニングラップからチェッカーまで激しいバトルを披露した。

「VITA-01」を使ったレースは今年でちょうど10周年。そして今回は海外からの遠征組を招き、『VITA OF ASIA』が初めて開催された。世界で生まれ育ち、活躍の場をアジアにまで広げているこのレースはこれからさらに盛り上がっていきそうだ。

◆プロモーター「VITA倶楽部」に聞いた今回のレースのポイント◆

Q:予選落ちをなしとすることにより、決勝進出台数が多いレースとなりましたね。
「できるだけたくさんの方にレースを楽しんで欲しいと考えたのです」

Q:安全に運営するための工夫は他にもありましたか。

「山英朗さんにドライビングアドバイザーをお願いしました。ブリーフィングを公式予選の前と後、そして決勝日も合わせて3回行い、福山さんに予選を振り返っていただくと同時に決勝レースに向けた注意事項もお話いただきました。また、ローリングスタートの手順も再確認していただきました」



「世界中で開催されるレースへと成長させていきたい」と話す「VITA倶楽部」代表の神谷誠二郎さん

■プロモーター「VITA倶楽部」交流会



参戦者同士が交流できるよう、決勝レース1の表彰式と同時に「VITA倶楽部」主催によるランチビュッフェも開催された



GTやツーリングカーレースでチャンピオンを獲得した経験を持つ福山英朗さんがドライビングアドバイザーをつとめた

■VITA OF ASIA決勝レース1

ポールポジションスタートの上野大哲がホールショットをゲット。それに2番グリッドスタートの中里紀夫が続く。後続を引き離しにかかった上野はオープニングラップ終了時点で中里以降に1秒711のアドバンテージを築くことに成功。その上野、中里、清水康友、眞田拓海とグリッドのオーダー通りにオープニングラップを帰ってくる。中里、清水、眞田に萬雲恒明を加えた4台が2位グループを形成すると、次第に中里が単独2位に。清水、眞田、萬雲がテールtoノーズのバトルを続ける。4周目に中里がミス。清水が2位に浮上する。結局、上野が後続に11秒670ものアドバンテージを築いてポールtoウィン。終盤に混乱があったことにより、いむらせいじが2位に。中里が3位入賞を飾ることとなった。



2グループに分けて行われた公式予選で総合トップタイムをマークした上野大哲がポールポジションからスタート



VITA OF ASIA決勝レース1／総合表彰式（優勝：上野大哲、2位：いむらせいじ、3位：中里紀夫）

■VITA OF ASIA決勝レース2

ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの伊藤直登。それに山谷直樹、萬雲、中里と、グリッドのオーダー通りに続く。伊藤はオープニングラップ終了時点で山谷以降に1秒385のアドバンテージを築くと、その伊藤、山谷、萬雲、中里のオーダーのままオープニングラップを終了。2周目に萬雲が山谷をパスする。Daniel L Mirandaが中里をパスし、山谷に続く4位に浮上。単独トップを走る伊藤の後方で萬雲も単独2位に。その後方で山谷、Miranda、中里、上野が激しく3位の座を争う。萬雲が伊藤に接近していくと、5周目のメインストレートでこれをパス。伊藤はマシンを失速され、山谷、Miranda、中里、上野の先行も許す。その後もリードを広げ続けた萬雲がトップチェッカーを受けた。



上位6台までが決勝レース1のゴール順のリバースグリッドスタートとなった決勝レース2。伊藤直登がポールポジションからスタートすることに



VITA OF ASIA決勝レース2／総合表彰式（優勝:萬雲恒明、2位:中里紀夫、3位:Daniel L Miranda）

■VITA OF ASIA／チャレンジ賞

『VITA OF ASIA』の表彰式は総合の他、海外からの参戦者を対象とした「チャレンジ賞」も設定された。
これにより、様々なエントラント、より多くのエントラントがさらに楽しめるレースとなった。



VITA OF ASIA決勝レース1／チャレンジ賞表彰式（優勝:Daniel L Miranda、2位:Liu Yang、3位:Yen Pin Kuan）



VITA OF ASIA決勝レース2／チャレンジ賞表彰式（優勝:Daniel L Miranda、2位:Liu Yang、3位:Dino Antonio）

Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答
「Voice of Pick up Driver&Team」。

VITA OF ASIA決勝レース1で優勝した

上野 大哲 選手(21歳/MOLECULEアキランド)



Q: 公式予選で総合トップタイムをマークしました。どんな予選でしたか。

「前走車のスリップを利用してタイムを出そうと考えていたのですが、お互いに譲り合いになってしまいました。気分を入れ替え、最後の最後でタイムを出すことができました」

Q: ホールショットを奪ってから一度もトップの座を明け渡すことなく、独走優勝を決めましたね。

「今までレースは4戦しか出たことがないのです。しかもローリングスタートは一度も経験がありません。そこで動画を見てスタートのイメージトレーニングをしました。また、僕のマシンは旧型でトルクも細いのです。不利な条件ばかりでしたが、とにかく前に行くことだけ考えました。勝てて良かったです」

Q: 決勝レース2はリバースグリッドです。

6番グリッドからのスタートとなりますが、どう戦いますか。

「決勝レース1とは違って集団の中からのスタートなので不安はあります。焦らず1周につき1台ずつ抜いていこうと思います。順調にいけばトップに立てるはずですよ」

※インタビューはレース1終了時のものです。